

来るべき社会とアートの役割

<https://alternative-kyoto.jp/>

公開フォーラム

想像力という資本

京都府域展開アートフェスティバル ALTERNATIVE KYOTO -もうひとつの京都-



Joseph Beuys and Louwrien Wijers during 3 day dialogue Beuys had in the Museum Boymans van Beuningen in Rotterdam around April 16, 1980
Photo: Cathrien van Ommen

2021年5月22日(土) 京都文化博物館別館

時間 | 13:30-17:30 (開場13:00) 参加費無料 定員 | 100名(先着順)

申込み方法 | E-MAILにて申込み ※裏面参照

問い合わせ先 | 京都:Re-Search実行委員会事務局

〒602-8570 京都市上京区下立売通新町西入藪ノ内町 京都府文化スポーツ部文化芸術課内

電話番号 075-414-4287 E-MAIL bungei@pref.kyoto.lg.jp

主催・企画 | 京都:Re-Search実行委員会(京都府、京丹後市、南丹市、八幡市 ほか)

企画協力 | 四方 幸子



京都府では、「海の京都(府北部)」「森の京都(府中部)」「お茶の京都(府南部)」エリアの歴史や風土、有形文化財や名勝、景観、豊かな自然や生活文化等を題材としたアートプロジェクトを展開してきました。今年度は、想像力を持つアートが新たな資本として、来るべき社会を変えて行く可能性をテーマにアートフェスティバルとして開催します。地域文化と先端技術を組み合わせたデジタルアートによる空間演出や、地域文化資源発信型のアーティスト・イン・レジデンスを活用した現代アート作品展示によって、地域の文化資源の魅力を引き出し、国内外へ発信、観光インバウンドの拡充と地域経済の活性化につながる取組として実施します。

本フォーラムは、今年度実施のアートフェスティバル「ALTERNATIVE KYOTO -もうひとつの京都-」のキックオフとして実施し、コロナ禍で変わりゆく社会におけるアートの役割を取り上げます。資本主義社会において、近代以降の芸術の価値は、市場原

理に依拠しつづけた結果、アートの社会的孤立という閉塞状況にあります。そのような中、アートの社会的有用性という21世紀的課題に立ち向かうため、ヨーゼフ・ボイスの「社会彫刻」^{※1}概念などから再解釈(分解、再構成、概念の拡大)させ、アートが新しい社会を構想する可能性を見定めるとともに、社会的共通資本^{※2}(社会の共通の財産)としての再構築を試みます。

想像力を持つアートが新たな資本として、科学、経済、精神性とを結び、ものの本質に迫り、新たな価値を創造することで、来るべき社会を変えて行くアートの可能性について領域を超えた対話の場を開きます。

※1ヨーゼフ・ボイス(1921-1986年)の提唱した概念で、あらゆる人間は自らの創造性によって社会の幸福に寄与しうる、すなわち、誰でも未来に向けて社会を彫刻しうるし、しなければならない、という呼びかけである。

※2経済学者の宇沢弘文(1928-2014年)が提唱した概念で、すべての人びとが、ゆたかな経済生活を営み、すぐれた文化を展開し、人間的に魅力のある社会の安定的な維持を可能にする自然環境と社会的装置のこと。

お申込みについて

受付方法

必要事項をご記入の上、E-MAILでお申込み下さい。

※定員に達し、ご参加いただけない場合のみ連絡いたします。

※お申し込み受付後、参加証のご送付はいたしません。

連絡のない場合、御参加いただけますので、当日会場までお越しください。

1) E-MAIL

件名を「京都:Re-Searchフォーラム参加」としたうえで、

1. お名前
2. お住まい
3. ご連絡先(メールアドレス)をご記入の上、お申込みください

お申込み期間

5月19日(水)17時まで ※申込み期間でも、定員に達し次第受付を終了させていただく場合がございます

お申込み先

京都:Re-Search実行委員会事務局(京都府文化スポーツ部文化芸術課)

E-MAIL bungei@pref.kyoto.lg.jp

※お申込みいただいた皆様の個人情報は、本フォーラムご登録に関わる業務及び新型コロナウイルス感染者が確認された場合の、感染経路追跡のためにのみ利用させていただきます。

【新型コロナウイルス感染症拡大防止対策について】

- ・参加者の皆様の健康安全を第一に、マスク着用、手指消毒、検温など感染症対策に万全を期して開催します。
- ・新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、会場の定員の半分以上の座席数とします。

【ご来場の皆さまへ(新型コロナウイルス感染拡大防止のために)】

- ・マスク着用や手指の消毒、検温等にご協力をお願いします。
- ・発熱等の症状のある方はご来場をお控えください。なお、新型コロナウイルス感染症の拡大状況により、実施内容が変更・中止となる場合があります。ご了承ください。

会場へのアクセス



THE MUSEUM OF KYOTO 京都文化博物館 bunpaku.or.jp
〒604-8183 京都市中京区三条高倉
Tel.(075)222-0888 Fax.(075)222-0889

【電車】□地下鉄「烏丸御池駅」下車[5]番出口から三条通りを東へ徒歩3分。□阪急「烏丸駅」下車[16]番出口から高倉通りを北へ徒歩7分。□京阪「三条駅」下車[6]番出口から三条通りを西へ徒歩15分。□JR・近鉄「京都駅」から地下鉄へ。

【バス】□「堺町御池」下車、徒歩2分。

京都府域展開アートフェスティバル

ALTERNATIVE KYOTO

公開フォーラム

想像力という〈資本〉 —来るべき社会と アートの役割—

Imagination as a form of “capital”
—The Coming Society and Role of Art—

第1部 基調講演① 収録映像出演



オードリー・タン
Audrey Tang /唐鳳

台湾ソーシャル・イノベーション
担当デジタル大臣

コンピューター言語 Perl と Haskell の再活性化やダン・ブルックリンと共同でオンライン・スプレッドシート EtherCalc を構築した業績で知られる。公共セクターでは、台湾の国家発展委員会のオープンデータ委員会委員及び国民基本教育(小学校から高等学校まで)のカリキュラム委員会委員を務め、台湾の初の試みであるネット規則制定プロジェクトを主導。プライベートでは、アップル社でコンピューター言語についてのコンサルタントを務め、オックスフォード大学出版と集合辞書編集について、ソーシャルテキスト社とソーシャルインタラクションデザインについての仕事に関わった。社会的セクターでは、“fork the government.”(政府の再構築)を合言葉に、市民社会実現のための創造的ツールに焦点を当てた活気あるコミュニティ g0v(ガバメント・ゼロ)に積極的に貢献している。

第1部 基調講演② 収録映像出演



ラウリン・ウェイヤース

Louwrien Wijers
アーティスト/ライター

photo: Egon Hanfstingl

1941年オランダ生まれ。継続的なインタビューを含むヨゼフ・ボイスとの交流を1968年からボイスが亡くなる1986年まで行う。自身の活動を「精神彫刻(メンタル・スカulptチャー)」と呼び、その最も重要なものとして1990年9月にアムステルダム市立美術館で5日間にわたり開催したシンポジウム「Art meets Science and Spirituality in a changing Economy」(1996年コペンハーゲンのクンストホール・シャーロットンボーで再開催)を位置づける。1998年から2005年にはロシアの経済学者スタニスラフ・メンシコフによる「思いやりのある経済(Compassionate Economy)」を提唱。2012年、モンドリアン財団がフリースランド(ボイスの祖先の出身地)に「ゲストスタジオ・ラウリン・ウェイヤース」を設立したのを機に50年間拠点としたアムステルダムから移住。2018年6月8日から9月16日には、ボイスが直接民主主義の理念を継承したフリースランドで「100 days Joseph Beuys comes from Friesland」を開催。

第2部 モデレーター



四方 幸子
SHIKATA Yukiko

キュレーティング/批評家

京都府出身。多摩美術大学・東京造形大学客員教授、IAMAS・武蔵野美術大学非常勤講師。オープン・ウォーター実行委員会ディレクター。データ、水、人、動植物、気象など「情報の流れ」から、アート、自然・社会科学を横断する活動を展開。キャンノン・アートラボ(1990-2001)、森美術館(2002-04)、NTT ICC(2004-10)と並行し、資生堂CyGnetをはじめ、フリーで先進的な展覧会やプロジェクトを数多く実現。近年の仕事に札幌国際芸術祭2014、茨城県北芸術祭2016(いずれもキュレーター)、メディアアートフェスティバルAMIT(ディレクター、2014-2018)、美術評論家連盟2020年度シンポジウム「文化/地殻/変動 訪れつつある世界とその後に来る芸術」(実行委員長)、オンライン・フェスティバルMMFS2020(ディレクター)など。国内外の審査員を歴任。共著多数。
yukikoshikata.com

第2部 パネルディスカッション

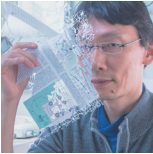


占部 まり
URABE Marie

内科医/
宇沢国際学館代表取締役

東京慈恵会医科大学卒業。人間の心のありようを大事にした経済学者・宇沢弘文の長女。宇沢の死去に伴い、宇沢国際学館の代表取締役就任している。近年の主なグループ展に「距離をめぐる11の物語：日本の現代美術」(国際交流基金、2021)、「Connections—海を越える憧れ、日本とフランスの150年」(ポーラ美術館、箱根、2020)、「CONTACT：つなぐ・むすぶ 日本と世界のアート展」(清水寺成してリベラルアーツと医療を繋ぐことも模索している。また、父を取った経験から、現代における死をめぐる問題を多角的に考える場の必要性を感じ、日本メント・モリ協会を立ち上げ死を想うことで、生きることを考える活動も行っている。

第2部 パネルディスカッション



岩崎秀雄
IWASAKI Hideo

研究者/アーティスト

生命美学プラットフォーム metaPhorest 主宰、早稲田大学理工学術院教授。科学および芸術の一筋縄ではいかない界面・関係性に興味を持ち、生命をめぐる科学・思想・芸術に関わる表現・研究のプラットフォーム metaPhorest を2007年より運営、国内外で作品制作・研究発表を行っている。「主な作品に「aPrayer:まだ見ぬつぐられしものたちの慰霊」(茨城県北芸術祭2016)、《Culturing <Paper> Cut》(ICC 他、2013)、《Biogenic Timestamp》(Ars Electronica、ICC、2013-)など。」合成生物学の研究会(「細胞を創る」研究会)の創設にも従事、2016年度会長。著書に「<生命>とは何だろうか：表現する生物学、思考する芸術」(講談社、2013)。バクテリアの生物時計や形態形成などの研究で文部科学大臣表彰若手科学者賞、時間生物学会奨励賞、ゲノム微生物学会奨励賞、2018年度文化庁メディア芸術祭優秀賞など。
https://hideo-iwasaki.com

第2部 パネルディスカッション



奥野 克巳
OKUNO Katsumi

文化人類学

1962年生。立教大学異文化コミュニケーション学部教授。20歳でメキシコ・シエラマドレ山中先住民テペワノの村に滞在、バングラデシュで上座部仏教僧となり、クルディスタンを旅し、欧米・西・南・東南・東・北アジア・豪・メラネシアを巡り、文化人類学を専攻。東南アジア赤道直下ボルネオ島の焼畑農耕民カリス、狩猟民プナンとともに、人間と非人間の生と死を学ぶ。著作に「ありがとうもごめんないもいらぬ森の民と暮らして人類学者が考えたこと」「マンガ人類学講義」「モノも石も死者も生きている世界の民から人類学者が教わったこと」、訳書にE. コーン「森は考える」R. ウィラースレフ「ソウル・ハンターズ」T. インゴルド「人類学とは何か」など。

第3部 プレゼンテーション



荒木 悠
ARAKI Yu

映像作家

1985年生まれ。異文化のはざまに着目し、それらを取り巻く事象を再現・再演・再話といった手法で編み直す映像インスタレーションを展開している。近年の主なグループ展に「距離をめぐる11の物語：日本の現代美術」(国際交流基金、2021)、「Connections—海を越える憧れ、日本とフランスの150年」(ポーラ美術館、箱根、2020)、「CONTACT：つなぐ・むすぶ 日本と世界のアート展」(清水寺成院、京都、2019)、「The Island of the Colorblind」(アートソング・センター、ソウル、2019)など。主な個展に「三泊五日」(板室温泉大黒屋、那須塩原、2021)、「ニッポンノミヤゲ」(資生堂ギャラリー、東京、2019)など。

第3部 プレゼンテーション



石川 竜一
ISHIKAWA Ryuichi

写真家

1984年沖縄県生まれ、沖縄国際大学社会文化学科卒業。在学中に写真と出会う。2008年より前衛舞踊家 しば正龍に師事。2013年頃まで付き人を務め、舞台に立ちながら、氏を撮影する。2010年より写真家 勇崎哲史に師事。写真に関わる広い分野の企画から運営までのアシスタントを務める。2014年に沖縄の人々や身近な環境で撮影したスナップを纏めた「okinawan portraits 2010-2012」「絶景のポリフォニー」を発表し、木村伊兵衛賞、日本写真協会新人賞、沖縄タイムス芸術選奨奨励賞を受賞。

日常のスナップやポートレイトを中心に現代の矛盾と混沌に向き合いつつも、そこから光を探るような作品を発表し、活動の場を日本国内外に広げ、その内容もビデオ作品や他ジャンルのアーティストとの共作、ミュージシャンとのセッションなど多岐にわたる。

第3部 プレゼンテーション



SIDE CORE

サイドコア

アートコレクティブ

2012年より活動開始。メンバーは高須映恵、松下徹、西広太志。ストリートカルチャーを切り口に様々なアートプロジェクトを展開している。「風景にノイズを起こす」をテーマに、都市や地域でのリサーチを土台としてアクションを伴った作品を制作。ギャラリーや美術館での展覧会開催の他に、壁画プロジェクトや街を探索する「ナイトワーク」など野外空間での活動も展開。全てのプロジェクトは、公共空間における視点や思考を転換させ、表現や行動を拡張することを目的としている。近年参加した主な展覧会に「大京都芸術祭2020 in 京丹後」(2020、京都府)、「生きている東京展」(2020、ワタリウム美術館、東京)、「under pressure」(2021、国際芸術センター青森、青森)など。

第3部 プレゼンテーション



島袋道浩
SHIMABUKU

美術家

1990年代初頭より世界中を旅しながら、そこに生きる人々の生活や文化、新しいコミュニケーションのあり方に関するサイトスペシフィックなパフォーマンスやインスタレーション作品を主に制作している。詩情とユーモアに溢れつつメタフォルカルに人々を触発するような作風は世界的な評価を得ている。近年はモノコ国立新美術館やクンストハーレ・ベルンなどで個展が開催される。「ヴェネツィア・ビエンナーレ」(2003、2017)、「サンパウロ・ビエンナーレ」(2006)、「ハバナ・ビエンナーレ」(2015)、「リヨン・ビエンナーレ」(2017)などに参加。「Reborn Art Festival 2019」(宮城県)ではキュレーターも務める。来年予定されている国際芸術祭「あいち2022」ではキュレトリアル・アドバイザーを務める。

第3部 プレゼンテーション



Hyslom

ヒスロム

アーティストグループ

photo: Dawid Misiorny

加藤至、星野文紀、吉田祐からなるアーティストグループ。2009年より活動をはじめ。造成地の探検で得た人やモノとの遭遇体験や違和感を表現の根幹に置き、舞台に立ちながら、氏を撮影する。遊び「フィールドプレイ」を各地で実践し映像や写真、パフォーマンス作品としてあらわす。またその記憶を彫刻作品や舞台、映画へと展開させている。2015年から任秀夫氏と共に「任・ヒスロム鳩舎」として日本鳩レース協会に加入。レース場に関するワークショップや展示などもおこなっている。近年の展覧会に、「hyslom itte kaette.Back and Forth」(Ujazdowski Castle Centre for Contemporary Art、2019)、「ヒスロム 仮設するヒト」(せんだいメディアテーク、2018)。パフォーマンス作品として、「KAC Performing Arts Program2018/Contemporary Dance「シティII」」(京都芸術センター、2019)「梅田哲也/hyslom 船」(大阪の水路や河川・港湾、2017、2018)。平成30年度京都市芸術文化特別奨励者認定。※劇団 維新派 故松本雄吉がそう呼んだことによる。

第1部

13:30 あいさつ・開催概要

13:40 基調講演① 収録映像出演
「「テクノロジー」という形の民主主義
-Democracy as a form of
《technology》-

登壇者

オードリー・タン | Audrey Tang | 唐鳳

(台湾ソーシャル・イノベーション担当デジタル大臣)

14:00 基調講演② 収録映像出演

「人は誰もがアーティストである
-Everybody is an artist-

登壇者

ラウリン・ウェイヤース | Louwrien Wijers

(アーティスト / ライター、オランダ)

第2部

14:30 パネルディスカッション

「来るべき社会とアートの役割」

パネリスト

岩崎 秀雄 (アーティスト / 生命科学研究者)

占部 まり (内科医、宇沢国際学館代表取締役)

奥野 克巳 (マルチスピーシーズ人類学)

モデレーター

四方 幸子 (キュレーター / 批評家)

第3部

16:15 プレゼンテーション

「京都府域で作品展示する各アーティスト
によるプロジェクト紹介」

アーティスト

荒木 悠 (映像作家)

石川 竜一 (写真家)

SIDE CORE (アートコレクティブ)

島袋 道浩 (美術家)

Hyslom (アーティストグループ)

ほか

モデレーター

八巻 真哉

(京都府文化スポーツ部文化芸術課 /

ALTERNATIVE KYOTO ディレクター)